

○ 本校の概要

本校は、児童数525名、教職員27名、学級数19(うち特別支援学級(固定)が3学級)の今年度開校93周年を迎える中規模な学校である。池二小の合言葉として、「いっしょに学ぶ池二の子 けんこうな心と池二の子 にここあひさつ池二の子」の3点がある。素直な児童が多く、学校全体は落ち着いた雰囲気である。校内研究では、研究主題「基礎・基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成 ～授業のユニバーサルデザイン化を通して～」に取り組んで3年目になる。PTA、おやじの会の活動も活発で、学校に非常に協力的である。地域は、市野倉南町会、堤方東町会、中央八丁目町会の3町会との関わりが深い。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・外国語、外国語活動は、担任(HRT)と外国語教育指導員(AIT)が連携して授業を行った。ネイティブの発声に聴いたり、デジタル教科書による音声を活用したり、会話の練習を通してコミュニケーションの育成を図った。	A 8 B 1 C 0 D 0	・正直、学校へ関われる事が少なくなってしまったので、評価が低いところである。 ・コロナ禍でコミュニケーションを深めることには、困難があったと思う。 ・授業の中で、教師・児童ともにタブレットを活用する場面が増え、児童が主体的に活用する力が付いてきた。 ・ICT活動(電子黒板、Chromebook)は、子供たちの様子から伺うことができる。継続して、情報活用能力の向上の取り組みを期待する。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・1月のものづくり教育フォーラムへ発表校として参加した。3年生が総会で各学級について学習した内容を絵本づくりを通して、その学習経過と、学習から得られた成果や感想を発表した。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・教員や児童はICT機器を毎日活用した。さらに、コロナ不安によるオンライン授業の要望にも応じた。情報主任が適宜研修を開催した。			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・日常的に道徳教育を中心に人権尊重教育を推進している。人権尊重週間には標語作成などに取り組んだ。副校長が人権教育先進地視察研修に参加し、校内で還元研修を行った。			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・コロナ禍でも工夫して体力テストを行い、12月と1月に一校一取組も実施した。			
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・学習カルテを作成し、担任が児童と面談をして個別に学習のつまづきや学習方法について指導した。 ・ステップ学習については、デジタル化に伴い3学期に重点的に活用した。	A 5 B 4 C 0 D 0	・この環境での先生方のご苦労は大きな状況であることはお察し申し上げた上で、さくとりとした評価にて申し訳ないところである。 ・算数の補習やタブレット使用の授業、年間7回の研究授業などの効果を感じる。 ・コロナの感染状況の中で、十分な時間をとれなかったものと思う。 ・確かな学力を付けるための授業改善に向けての努力した成果が出てきている。アンケートの中からも、先生方の授業を評価している。 ・補習教室や学習カルテ等基礎学力の定着に努めている。 ・セレクト学習などの取り組みから対応できていると思う。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・3～6年生を対象に算数クラブ教室(平日補習教室)を週3日間実施した。学習指導講師を72名も活用した。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・8月に授業改善推進プランを作成し、ホームページに掲載するとともに、作成して終わりではなく改善し続けた。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	池にやんファイル(読書記録ファイル)に読んだ本を記録させ、6年間取りためる活動を継続している。低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊または10,000ページを達成した際は校長が表彰している。その結果、児童の読書量が区の平均を大幅に超えている。			
		学習意欲、学習効果を高めるために、学校図書館(よみものへのや、調べものへのや)の活用や読書学習司書と連携した授業を学期に1回以上行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:90%以上 3:80%以上	3	池にやんファイル(読書記録ファイル)に読んだ本を記録させ、6年間取りためる活動を継続している。低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊または10,000ページを達成した際は校長が表彰している。その結果、児童の読書量が区の平均を大幅に超えている。			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・池二スタンダード(学習・生活編)を活用し共通の指導を実施している。 ・2学期の授業観察を道徳に指定し、全学級で重点的に取り組み、互いに授業を見学し、コロナ禍の中、道徳授業地区公開講座を実施した。	A 9 B 0 C 0 D 0	・校長先生のご資料・保護者アンケートを拝見させて頂き、総じて児童たちの成長を感じる事ができる。 ・コロナで子供たちのメンタルはとも気になる。 ・地域で、いじめやけんかする子どもを見たことがない。学校での教育の成果と思うが、油断することなく、継続した指導をお願いしたい。 ・コロナ禍の中で、子供たちとの関わりにご苦労されたと思う。 ・いじめ防止基本方針を周知し、定期的に学校生活アンケートを実施し、家庭と連携しながら取り組んでいる。 ・すべての教育活動を通して、人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育てている。 ・地教連での報告にて、いじめや不登校の対応は確認できました。引き続きよろしくお願ひしたい。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・学校いじめ防止基本方針を年度当初に見直し改訂し、池二小いじめ対策委員会に基づき、いじめの認知について共通理解を図り、学校いじめ対策委員会を毎月開催し、いじめに関する授業、いじめに関する研修を年間3回実施した。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・学校不登校対策委員会を毎月開催し共通理解を図るとともに、登校支援員を積極的に活用した。大田区子ども家庭支援センター、品川児童相談所などの外部機関とともにケース会議を開催し、組織的に対応にあたった。 ・コロナの感染状況を見極めながら「友だちひろば」を実施した。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたの会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・学校不登校対策委員会を毎月開催し共通理解を図るとともに、登校支援員を積極的に活用した。大田区子ども家庭支援センター、品川児童相談所などの外部機関とともにケース会議を開催し、組織的に対応にあたった。 ・コロナの感染状況を見極めながら「友だちひろば」を実施した。			
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・5月と10月に「早寝・早起き・朝ごはん」に連携して取り組み、望ましい生活習慣の確立を目指した結果、意識を高めた。 ・学校栄養士を中心に、給食指導時及び学級活動等の時間に「食育」を全学級で推進した。	A 6 B 3 C 0 D 0	・「ねぼうした。朝ごはん食べていない。」という子が、まれですがいる。親の責任かもしれませんが、なしたいと思う。 ・長く続いている取組「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本がスポーツ向上に繋がって行くと感じる。 ・コロナ禍の中で、活動が制約されたことによるものと思う。 ・コロナ禍の中でも、安全に配慮し集団活動を通して、友達のように気付き、仲間と協力できる児童を育成している。 ・昨年と同様にコロナ禍による制限(密集しない体育等)について対応できている。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・体育・健康教育地区公開講座はコロナ禍のためオンラインで実施した。感染拡大防止対策を取りながら種目や時間、観覧人数を工夫してミニ運動会を実施した。一校一取組では短縮版びりやマラソンに全校で取り組んだ結果、休み時間等に自主的に練習する姿が多見られた。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・体育・健康教育地区公開講座はコロナ禍のためオンラインで実施した。感染拡大防止対策を取りながら種目や時間、観覧人数を工夫してミニ運動会を実施した。一校一取組では短縮版びりやマラソンに全校で取り組んだ結果、休み時間等に自主的に練習する姿が多見られた。			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・学校公開日やミニ運動会、学芸会後には保護者アンケートを実施し、全教員で回収しその後の授業改善に生かした。 ・授業改善セミナーの研修成果を生かしたり、わかば研という初任者から3年次までの若手教員へのOJTも実施したりしている。	A 9 B 0 C 0 D 0	・コロナ禍の中で、教育環境を整えていただきたい。 ・学校の方針に沿って、教職員が熱心に取り組んでいるので、保護者の評価が高い。 ・授業改善に向けた研究の成果が出ている。 ・家庭からのアンケート結果について、その回答を学校から書面で頂いている。その対応は良いと思うので、引き続き対応をお願いしたい。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・コロナにより公開授業は大幅に減少したが、2学期以降は各教科主任が指導教諭による模範授業に積極的に参加し、研修後には夕会等で還元した。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・特別支援校内委員会を毎月一回以上実施し、個別に支援が必要な児童に対して組織的に対応した。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・校内研究と連動して、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境を整備し、毎月点検が確認されている。			
		ユニバーサルデザインの視点に沿った教室環境を整える。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・校内研究と連動して、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境を整備し、毎月点検が確認されている。			
プラン6 学校・家庭・地域ともに進める地域教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・積極的にホームページで情報発信を続けた。タブレット端末による動画の公開も実施した。 ・9月と11月に地域教育連絡協議会を実施し、「開かれた学校」を目指して積極的に情報を公開した。保護者の来校を制限することで、地域教育連絡協議会委員による適正な評価を受けるようとした。	A 8 B 1 C 0 D 0	・コロナ禍で多々ご苦労がある。地域としても、一緒に子供たちの育成を深めていきたい。 ・コロナ禍において活動が困難な地域との関わりが課題です。 ・コロナの中で、地域や保護者の方との関わりも難しくなったのではないかと。 ・コロナの中で、保護者や地域へ積極的に情報を発信し、安心・安全な学校づくりを行っている。 ・コロナを考慮して、必要最小限の活動はできている。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発達の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:おたの情報を提供した。 3:おたの情報を提供しなかった。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・9月と11月に地域教育連絡協議会を実施し、「開かれた学校」を目指して積極的に情報を公開した。保護者の来校を制限することで、地域教育連絡協議会委員による適正な評価を受けるようとした。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:全教員で行った。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・昨年度中止した「夏のわくわくスクール」を今年度は実施した。児童の登下校の見守りを実施していただいた結果、交通安全に気を付けることができた。			
		各学年の発達段階に応じた「家庭学習スタンダード」に基づき、セレクト学習(自主学習ノート)を実施し、家庭学習の習慣化を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上	4	・セレクト学習が定着してきて、毎月の学年だよりの裏面で優れた家庭学習を紹介した結果、家庭学習の習慣化が進んできた。			

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。